



外務省委託

平和構築・開発における グローバル人材育成事業

Global Peacebuilders Program

令和元年度 事業活動レポート

2019

Be a Peacebuilder!



不死鳥を象ったHPCのロゴは、奇跡の戦後復興を遂げた広島で、紛争後の国を支援する平和構築のプロを育成するというHPCの基本精神を象徴しています。

一般社団法人 広島平和構築人材育成センター (HPC)

< 広島本部事務所 >
〒730-0053 広島県広島市中区東千田町1-1-61ナレッジスクエア1階

< 東京事務所 >
〒102-0083 東京都千代田区麹町1-4-4 2階

TEL 082-909-2631 FAX 082-553-0910

URL <https://peacebuilderscenter.jp/>

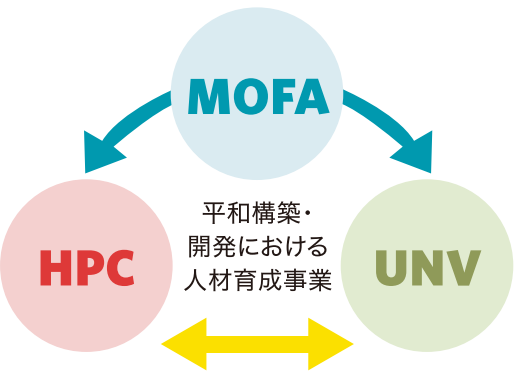
コピーライト (C) 外務省
デザイン・編集 一般社団法人広島平和構築人材育成センター (HPC)
発行 令和2年3月

広島平和構築人材育成センター

Hiroshima Peacebuilders Center: HPC

平和構築・開発の担い手を育てます

実施体制



平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業とは

本事業は、平和構築および開発分野で国際的に活躍していく人材を養成することを目的とした外務省の人材育成事業です。

2019年度は、平和構築および開発分野で今後キャリア形成を目指す方のための「プライマリー・コース」、現在国際機関で勤務していないが、今までの経験を活かし、今後国際機関での勤務を希望する、10年程度の専門的な職務経験をお持ちの方のための「グローバルキャリア・コース」、平和構築・開発分野で10年程度の経験を持ち、同分野で今後更なる活躍を目指す方のための「ミッドキャリア・コース」、プライマリー・コース修了生を対象に、国際機関やNGO等での就職を希望する方に、平和構築・開発分野のポスト獲得に必要なスキル・知識を提供する「キャリア構築支援」を実施しました。本事業は、外務省委託事業として、前身である「平和構築人材育成事業」から今日の「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」に至るまで広島平和構築人材育成センター(Hiroshima Peacebuilders Center: HPC)が運営にあたり、プライマリー・コースの海外派遣は主として国連ボランティア計画(United Nations Volunteers Programme: UNV)が実施しています。

国際的支援に貢献する意欲に満ち溢れた人材が、さらにその意欲を高めるために。

平和構築の人材育成のための事業であれば、平和構築に関心を持つ者が事業運営にあたるべきではないかという気持ちだけで、この事業を始めました。13年間にわたり、多くの方々と知り合うことができました。今や多くの研修員・修了生が、世界中の様々な組織で、平和構築に貢献しています。運営者として、本当に誇りに感じています。また、かつてHPCに勤務した元職員たちが、今は国連・政府・NGOを通じて、平和構築関連の現場・組織で働いていることも、嬉しく思います。平和構築を志す多くの方々が、HPCを媒介にして飛躍し、活躍し続けています。この事業の主役は世界中で平和構築や開発に貢献する、研修員・修了生の方々です。そして本事業の運営にあたっては、これらの分野の担い手を育成する、という目標に徹底的にこだわりたいと考えています。人材育成は、簡単に結果が見えてくることはない、息の長い作業です。しかしそれだけに醍醐味のある活動です。HPCは、本事業をいっそう発展させてくれる新しい仲間をこれからも歓迎します。



篠田 英朗

HPC代表理事／平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業プログラム・ディレクター／東京外国語大学教授

ロンドン大学(LSE) Ph.D.(国際関係学)。平和構築などに関する著書・論文を多数執筆。代表作：『平和構築と法の支配』（大佛次郎論壇賞）、『国家主権という思想』（サントリー学芸賞）、『集団的自衛権の思想史』（読売・吉野作造賞）など。

本事業で提供する研修コースの特徴

キャリア構築に有益な知識の獲得や実務的な技能の習得をする機会を提供

キャリア構築に有益な知識とは、たとえば平和構築にかかわる様々な議論、現場で活動している主な組織、政策に関する知識のことです。これらを効率的に提供するだけでなく、様々な対応能力が求められる援助調整やプロジェクト運営を意識したシミュレーション形式の演習も取り入れています。これは集団内での課題解決という点で実際の業務に近い経験をできるよう考慮したものです。

さらに、国連等の国際機関でのキャリア構築では個々人の多面的なコンピテンシー(業務能力)が問われます。国内研修では、研修それ自体が一つの目標に向かって多国籍のチームがダイナミックな作業をする現場であると位置づけ、コンピテンシー向上のための具体的な経験を積む機会を作り出しています。

キャリア構築への意識を鋭くする環境を提供

自らがどうして平和構築にかかわるのか、どのようにかわるのか、これらのことを考えることは長期的にキャリアを構築する上で重要です。国内研修の機会を通じて平和構築分野に携わる動機や使命感を深めることができるように配慮しています。

また、平和構築分野の経験がない方でも国際機関におけるキャリア構築についてイメージを具体化できるよう気付きの機会を提供します。

専門家、実務家、修了生や同期研修員との国際的なネットワーク構築の場を提供

平和構築の現場には様々な学歴、経歴、バックグラウンドを持った人が関わるため、決まったキャリア構築の路線があるわけではありません。様々な人の実例に数多くふれて経験的な知識を広げながら、創造的に自分のキャリアを切り開いていかなければなりません。研修の運営にあたって、知識や経験が豊富な講師陣などの専門家層や修了生との交流を促進し、さらに悩みを語り合え、志を共有する仲間の輪を広げ、信頼関係で結ばれた人的ネットワークを充実させていけるように最大限の配慮をしています。



外務省

茂木 敏充 外務大臣

世界各地で依然として紛争が続く中、国際社会は、紛争の影響を受けた地域の人々が、平和を構築し、復興に取り組み、そして開発の道のりを歩むことができるよう、支援し続けることが重要です。そのような支援を行うためには、「法の支配」や「人権の擁護」を含む幅広い分野で、高い専門性と能力を持つ文民の専門家が求められています。

この人材育成事業は、2007年の発足以来、日本での研修や、国連ボランティアとしての海外派遣を通じて、平和構築や開発の担い手を輩出してきており、多くの有能な人材が、国際協力の最前線で活躍し続けています。例えば、この事業の修了生の中には、コンゴ民主共和国の国連PKOで性的暴力の防止に取り組む女性や、シリアの国連難民高等弁務官事務所で避難民の援助にあたっている女性があります。この事業に参加される皆さんが、「積極的平和主義」の担い手として、現地の人々と共に平和構築や開発のために何が大切かを一緒に考える包容力を持ちつつ、国際的な課題の解決に向けてリーダーシップを取っていく力強さを発揮されることを心から願っています。

MOFA



国連ボランティア計画

オリビエ・アダム 国連ボランティア計画(UNV)事務局長

平和の恩恵を受けること、あるいは参加型の社会、経済開発を進めることが極めて困難である地域や国において、ボランティアリズムは主要な役割を担っています。ボランティアリズムは緊急支援から復興までの移行を促進し、また脆弱な環境が慢性化しているコミュニティのキャパシティを強化する上でも重要な要素となってきます。国連ボランティア計画は平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業を通じて世界の最も困難といわれる地域における経済開発や平和構築に貢献しているボランティアをとっても誇りに思っています。今後のキャリアを構築する段階にいる若い人々にとって任地での経験は貴重なだけでなく、より自身の志を高めることとなるでしょう。彼らは任地での貢献以上に異なる文化、異なる国で生きる人々と共に暮らし、そして仕事をするというなにもにも代えがたい経験をするのです。

UNV



広島平和構築人材育成センター

長谷川 祐弘 HPC評議委員会委員長／元国連事務総長特別代表(東ティモール代表)

変遷していく平和の本質と条件と共に、ピースビルダーズの役割が進化を遂げています。国連創設時には、平和とは単に紛争のない状態を示唆していたものが、冷戦終結に伴い多様化しました。21世紀になってから、紛争の根源的な原因を除去し、法の支配と自由民主主義に基づいた永続的な平和の構築が、平和構築活動の任務となりました。近年の紛争が国際社会や関係諸国の指導者や市民の思考方法の変化に伴い、普遍的な理念や人間の行動規範の融和を保つことが困難になってきております。このような状態で国際社会と、そして現地の社会の伝統との価値観の統合が求められて来ております。平和構築支援に携わる者たちは、現地社会の自立精神を尊重し、指導者が自らの欲望の自制と他人への「思いやり」の気持ちで、新たな平和構築を目指すことを願っています。

HPC





CONTENTS

平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業とは _____	02
プライマリー・コース _____	05
プライマリー・コース海外派遣 _____	07
プライマリー・コース修了生のキャリアパス例 _____	08
ミッドキャリア・コース _____	09

グローバルキャリア・コース _____	11
キャリア構築支援 _____	13
事業が目指すキャリア構築 _____	15
ピースビルダーズ特集 _____	17



1 | 国内研修



2020年1月22日から2月25日まで東京と広島において国内研修を実施し、日本人研修員14名およびアジア・アフリカ各国の外国人研修員9名が、約5週間にわたり寝食を共にし、ロール・プレイやグループワーク等を通じて互いに切磋琢磨しました。海外の平和構築人材育成機関や国連などの国際機関と連携し、世界最高水準の講師陣による充実した研修を実施しました。これによって、平和構築・開発分野の第一線で活躍する実務家との人的ネットワークの形成も期待されます。

2 | 海外派遣

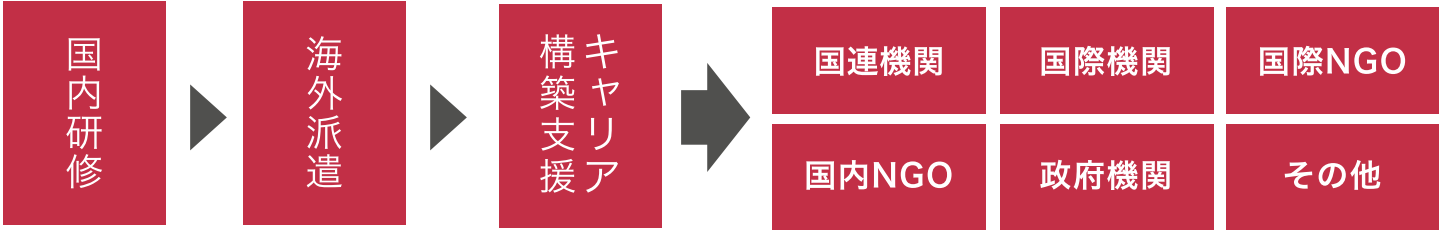


日本人研修員は国内研修修了後、国連ボランティア (UNV)として平和構築・開発分野の現場で活動している国際機関等へ、最大12ヵ月間派遣されます。研修員は、国内研修実施後の2020年3月から順次派遣され始めました。平和構築・開発分野の専門家になるためには、実務経験が欠かせません。国内研修で習得した理論やスキルなどを現場で実践する貴重な機会となります。なお2019年10月には、研修員と派遣先の円滑なマッチングのために、国連機関駐日事務所の職員の方々を招き、日本人研修員を対象に2日間にわたるオリエンテーションを実施しました。

3 | キャリア構築支援



国内研修開始前から、将来のキャリア・プランづくりを支援しています。国際機関の要職経験者や人事担当者による助言制度などのサポート体制を強化するとともに、他の研修員、国内研修の講師陣、海外派遣先の機関などと研修を通じて幅広い人脈を築くことが可能です。また、採用に関する情報の提供を目指します。



今年度研修員からのメッセージ



ジュベナル・ムヌボ・ムビ

コンゴ民主共和国国会議員

プライマリー・コースは私にとって非常に素晴らしい経験でした。この研修では、政治分析、プランニング、コーディネーション、マネジメントなど多くのことを学びました。興味深いバックグラウンドを持つ講師の選出や講師陣の指導方法、参加型の交流を提供していただいたことに感謝しています。特に、広島での滞在についても感謝しています。

広島平和記念公園への訪問や宮島と呉のヤマトミュージアムへのエクスカーションは忘れることはできません。日本が平和な世界の構築に大きく貢献する事への強い決意を持っているということは、大きな教訓となりました。これらの理由により、コンゴ民主共和国の国民議会の議員として、核兵器を禁止する条約への投票を提唱しようと思っています。また、日本の文化と発展レベルについても評価しています。私は日本との強力な外交関係を確立すべく、自国の政府に提言します。コンゴ民主共和国での次の選挙の前に、さらにもう一期の議員としての使命を見つけるか、国連の役職に応募するかを決めようと思います。国連平和活動局(DPO)の活動についても評価しています。



北川 真知子

私は、民間セクターから国際開発の分野へ転向して4年目で本研修に参加しました。参加前はミャンマーで現地NPOや日本大使館の委嘱員として働いていました。今後は、国連や国際機関で民間セクターとのパートナーシップを通じInclusive Societyの実現に関わることを目指しています。今回応募したのは、ミャンマーで働いていた際に重要だと感じた平和構築や人道支援の見識を深めたかったこと、国連で求められるコンピテンシーを高めたかったからです。

研修では、現場を熟知する経験豊富な講師陣が惜しみなく知識を伝授してくれました。中でも、人道支援のロール・プレーや模擬会議などのワークショップは、現場の難しさを垣間見ることができ非常に印象に残っています。また、応募書類や面接のコツ、国際機関でのキャリア構築に関しても親身に相談にのってもらえ、休み時間には講師陣の臨場感溢れる現場の体験談も聞けました。講師陣や研修員同士と築いたネットワークは今後も大切にしていきたい財産です。プライマリー・コースは、これから国連や国際機関でキャリアを積んでいきたい方にぜひお勧めします。

国内研修の様子



国内外より講師・研修員が集まり、活発な討議が行われる中で約5週間の国内研修を実施しました。



国連平和構築活動における経験豊富な講師が、直接講義を行いました。



問題解決に向け、講師と研修員が共に意見を出し、協力しました。



週末のエクスカーションでは、1945年の原子爆弾被ばくの痕を留める「原爆ドーム」視察を通じ、研修員は平和の大切さを再確認しました。

令和元年度(2019年度)プライマリー・コース：カリキュラム・講師紹介

Initial Week

開講式・政務官表敬訪問・自己紹介プレゼンテーション・チームビルディング・陸上自衛隊駒門駐屯訪問

篠田 英朗 HPC代表理事/東京外国語大学教授	玉内 みちる HPCシニア・アドバイザー (キャリア構築支援)
上杉 勇司 HPC副理事/早稲田大学教授	横山 裕之 陸上自衛隊中央即応集団国際活動教育隊隊長

Workshop 1: アナリシス

紛争分析の理論と様々な方法 | 政治的・法的分野(和平調停・裁判所等)の政策的課題

ジョマート・オルモンベコフ 国連政治・平和構築局北京駐在政務調整官	水田 慎一 国連事務総長特別代表(アフガニスタン担当) 国連アフガニスタン支援ミッション代表・特別補佐官
シモネット・ロッシ 国連シエラレオネ常駐調整官事務所 平和・開発アドバイザー	リサ・リーフキ 国連アフガニスタン支援ミッション 政務部上級政務担当官
デズモンド・モロイ HPCコース・メンター/アジア財団ミャンマープログラム・マネージャー	エマ・ピリコラン コフィ・アナン国際平和維持訓練センター (KAIPTC)学術調査副部長
小野 京子 国連人道問題調整事務所(OCHA) ラカイン事務所代表	篠田 英朗 / 上杉 勇司
藤原 広人 国際刑事裁判所(ICC)書記局・対外活動局 国別分析ユニット長	

Workshop 3 : コーディネーション

多様な組織間の業務調整・交渉の手法 | 人道援助活動の政策的課題

忍足 謙朗 HPC評議委員/難民を助ける会(AAR Japan) 常任理事/元国連世界食糧計画(WFP) アジア地域局長	ラシッド・エルミ 国際平和支援訓練センター(ケニア) センター 長/ 国立防衛校(ケニア) 空軍上級指導官
イ・キョンシン 人道支援における独立コンサルタント	ジョン・キャンベル プライベート・コンサルタント/元国連難民 高等弁務官事務所 (UNHCR) インドネシア 安全アドバイザー
ピーター・コゼレッツ 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) バンコク事務所国際人道援助緊急事態対応 訓練地域センターコーディネーター	ルイス・ロビンソン InSiTuトレーニング ディレクター / 上級人道 支援アドバイザー・安全トレーニング専門家
ジェーン・コニー 国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS) 救援・再統合・文民保護部 (RRP) ペンティウ事務所チームリーダー	篠田 英朗 / 上杉 勇司 玉内 みちる

Workshop 4 : マネジメント

プロジェクト運営の手法 | 開発援助活動(各種援助スキームを通じた支援)の政策的課題

中村 俊裕 NPO法人コペルニク (Kopernik) 共同創 設者兼CEO/大阪大学COデザインセンタ ー招聘教授	スキ・ナグラ 国連イエメン常駐調整官事務所 平和開発シニア・アドバイザー
小松原 茂樹 国連開発計画(UNDP)マラウイ共和国 常駐代表	根本 巳欧 国連児童基金(UNICEF)東京事務所 副代表
馬目 美奈子 国連開発計画(UNDP)シリアチームリーダー	篠田 英朗 / 上杉 勇司 忍足 謙朗 / イ・キョンシン ジョン・キャンベル

Workshop 2 : プランニング

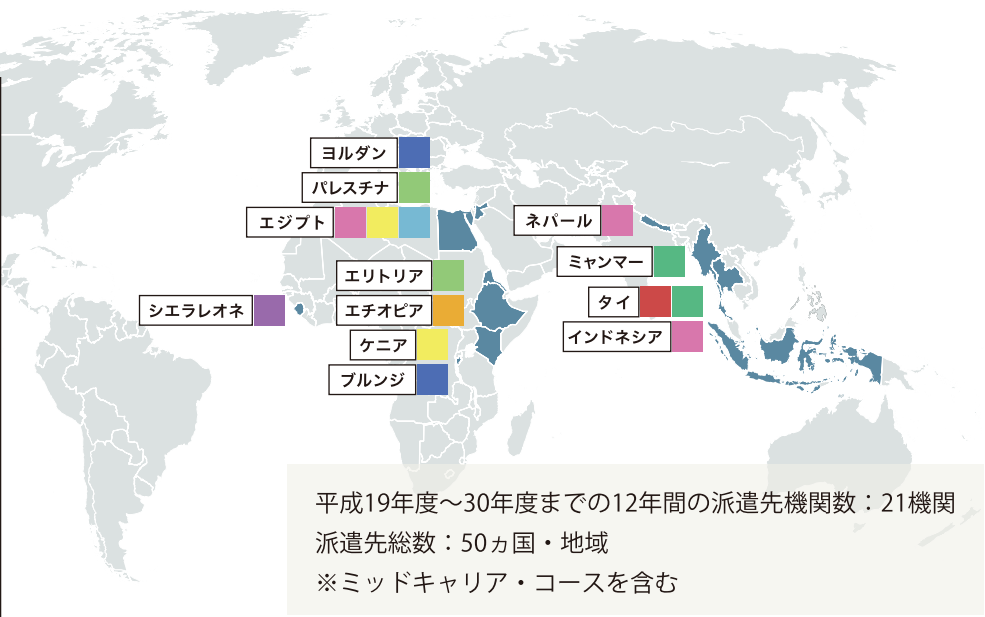
活動計画の立案の手法 | 安全保障分野(DDR・SSR・PKOミッション等)の政策的課題
国連人事システムに対応するスキル

長谷川 祐弘 HPC評議委員会委員長/日本国際平和構築協 会理事長/元国連事務総長特別代表(東ティ モール担当)	マリア・ロベス・エチェバリア 国連南スーダン共和国ミッション (UNMISS) 復興と帰還、社会復帰担当官
マイケル・エメリー 国際移住機関(IOM)人事部長	篠田 英朗 / 上杉 勇司
アンソニー・P・ダンカー 国連オペレーション支援局 (DOS) 人事部次長	玉内 みちる / デズモンド・モロイ

＜国連機関駐日事務所オリエンテーション(2019年10月開催、日本人研修員対象)実施機関＞

国連人道問題調整事務所(OCHA)/国連食糧農業機関(FAO)/国連児童基金(UNICEF)/国連人口基金(UNFPA)/国連プロジェクトサービス機関 (UNOPS)/国連世界食糧計画(WFP)/国際移住機関(IOM)/国連開発計画(UNDP)/国連防災機関(UNDRR)/国連難民高等弁務官 (UNHCR)

- 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)
タイ
- 国連児童基金 (UNICEF)
ネパール、インドネシア、エジプト
- 国連開発計画 (UNDP)
エチオピア
- 国際移住機関 (IOM)
エジプト、ケニア
- 国連女性機関 (UN Women)
ミャンマー、タイ
- 国連人道問題調整事務所 (UN OCHA)
エリトリア、パレスチナ
- 国連世界食糧計画 (WFP)
ブルンジ、ヨルダン
- 国連教育科学文化機関 (UNESCO)
エジプト
- 国連プロジェクトサービス機関 (UNOPS)
シエラレオネ



国連ボランティアとして積む、平和構築・開発の現場での実務経験

海外派遣では、国連ボランティアとして国際機関での実務に従事します。これによって、国内研修で習得した理論やスキルを現場で実践すると同時に、実務経験を積みながら現場での活動のノウハウを習得します。これまでの事業では、国連開発計画 (UNDP)、国連児童基金 (UNICEF)、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、国連世界食糧計画 (WFP)、国際移住機関 (IOM) といった国連機関が主な受け入れ先となりました。派遣先の地域もアフリカ、ヨーロッパ、中東、中央アジア、東南アジア、中央アメリカなど非常に多岐にわたっています。



<国連プロジェクトサービス機関 (UNOPS) シエラレオネ>
首都の防災プロジェクトに関するディスカッション。市政府、ドナー、他のステークホルダーと共に。



<国連世界食糧計画 (WFP) ヨルダン>
ヨルダン人の若者職務訓練事業の開会式の時の写真。18歳から30歳の若者200名を対象に職務訓練を行い、研修後参加者の半数以上が仕事を見つけ、食糧支援から受益者が依存せず自立できることを目的としたプロジェクト。



<国連児童基金 (UNICEF) ネパール>
バル・チェタン小学校に建設された仮設学習センター内においてサイト訪問時、ユニセフが実施した支援 (トレーニング) の内容をどのように活かしているのかを聞いている様子。



吉川 美帆

平成25年度(2013年度)
プライマリー・コース修了生

応募動機

学生時代より、子どもの保護(特に紛争の影響を受けた子どもの保護)の仕事をするのが夢でした。子どもの権利実現を目指し、世界190か国以上で様々な支援活動及びアドボカシー活動を実施しているUNICEFで勤務し、子どもの保護に関するプログラムに携わること、より深い知識や幅広い経験を得ることが出来ると思い応募しました。

研修参加前のキャリア

アメリカの大学院にて国際開発学を専攻、在学中に、アメリカに本部を置くNGOのルワンダ事務所にてインターンをし、HIV/AIDSに影響を受けた孤児への支援に携っていました。修士号取得後は、在エチオピア日本大使館にて草の根無償委嘱員として2年間勤務し、草の根レベルの開発援助プロジェクト・マネジメント及びモニタリング評価を行いました。その後、日本へ帰国しリサーチ・アシスタントとしてシンクタンクに勤め、アジア各国の社会福祉に関する政策分析等を行っていました。

海外派遣でのタイトル・職務内容

海外派遣ではUNICEFインド事務所にて子どもの保護担当官として勤務しました。子どもの保護に関するシステム作り(情報管理システムの立ち上げ及びパイロット事業等)、少年司法、児童労働、児童婚、子どもに対する暴力、市民戦争に影響を受けた子どもの保護等複数分野に携わりました。

研修終了後のキャリア

UNICEFインド事務所にてUNVとして1年期限を延長し、計2年間勤務した後、UNICEFカンボジア事務所にて子どもの保護担当官(JPO)として3年間勤務しました。UNICEFカンボジア事務所では、複数の分野(教育、保健、社会福祉、ジェンダー、コミュニケーション等)と連携し、子どもに対する暴力の防止及び対応に関する業務を行いました。2019年6月からは、UNICEFカンボジア事務所にて子どもの保護専門家(P3)として働いています。



菅原 雄一

平成26年度(2014年)
プライマリー・コース修了生

応募動機

紛争後地域における平和維持・平和構築に関心を持ち、同分野で勤務する将来的な機会を模索する中で本事業のことを知りました。学部学生時代から参加を希望し、関連分野での実務経験を積んだ後、より現場に近い国連事務所での勤務経験を得るために応募しました。

研修参加前のキャリア

大学卒業後、英国の大学院で修士号(紛争解決学)を取得しました。外務省国際協力局の経済協力専門員として採用され、ルワンダ及びブルンジへの開発協力を1年間担当した後、在スーダン日本大使館の専門調査員に採用され、2年間同国の首都ハルツームで政務・経済・広報文化業務に従事しました。

海外派遣でのタイトル・職務内容

南スーダンの国連PKO(UNMISS)に報告・情報分析官(Reporting and Information Analyst)として派遣されました。同国西エクアトリア地域のフィールドオフィスに常駐し、情報収集とオペレーション調整に従事しました。担当地域の政治、治安、人道情勢に関して、軍事連絡要員や国連警察の同僚と24時間体制で監視し、首都ジュバにあるミッション本部に日時・週次で報告していました。

研修終了後のキャリア

紛争地での情報分析において、統計分析のスキルが足りないことを痛感したため、帰国後、2度目の大学院修士課程で計量政治学を専攻しました。その後、内閣府国際平和協力本部事務局での研究員を経て、JPOとして採用されました。2019年6月に、国連本部(ニューヨーク)平和活動局に着任し、民政官補(Associate Civil Affairs Officer)として、国連PKOに派遣されている民政官からのデータ収集と分析を担当しています。



金子 有美子

平成29年度(2017年度)
プライマリー・コース修了生

応募動機

国際機関において、平和構築に携わる現場での実務経験を積めること、国内研修を通して、幅広い分野の経験豊かな講師陣から得られる知識や、同期とのネットワークに魅力を感じて応募しました。

研修参加前のキャリア

大学卒業後、日本の民間企業でコンサルタント業務や営業を担当した後、英国の大学院で修士課程(開発行政・計画)を修了し、博士課程(政治学)へ進学しました。東ティモールをケーススタディとした、平和構築におけるレジリエンス・アプローチを研究しました。

海外派遣でのタイトル・職務内容

国連開発計画(UNDP)フィリピン事務所にて、平和構築・レジリエンス担当官として勤務しました。ミンダナオ島のパンサモロ暫定自治政府発足(2019年2月22日)にむけて、和平プロセスを支援するプロジェクトの実施、政府機関やドナー間を調整し、フォーラムを主催しました。また、正常化(モロ・イスラム解放戦線兵士の退役・武装解除)の活動を支援するためのプロジェクトを立案し、その運営を担当しました。

研修終了後のキャリア

UNVとして勤務していたUNDPフィリピン事務所にて正規職員として契約を更新し、引き続き正常化プロセスを支援するプロジェクトをマネジメントしています。価値観が違っても何が正当なのか判断が難しく、また、正論を主張することが必ずしも適切でないこともあり、日々学び、試行錯誤しながら任務に当たっています。



Mid-Career Course

ミッドキャリア・コース

平和構築・開発の現場におけるキャリア構築のためのスキル、能力の深化と実践

ミッドキャリア・コースでは、平和構築・開発に関連する諸分野（法律、行政、医療、IT、調達、会計、広報等を含む）で10年程度の実務経験を有する方々のキャリア発展を目的とし、組織における立場の変化や複雑化する業務への対応等の課題に対し、求められる総合的な応用力として、国際機関における「Competencies(業務能力)」である「コミュニケーション/ネゴシエーション」、「リーダーシップ/マネジメント」に焦点をあてて、ロールプレイ演習などを通じた強化を目指しました。参加者の方々には、講師陣のフィードバックをもとに更なる個々人のパフォーマンスの向上を図り、またチームワークを通じたネットワーク構築を進めていただく機会を提供しました。今年度は2019年8月31日から9月6日の7日間にわたり、東京で実施しました。

今年度参加者からのメッセージ



和泉 寿之

国連開発計画 (UNDP) スーダン事務所ダルフール・コミュニティベース平和と安定化基金 (DCPSF) 担当技術事務局長

私は、UNDPでの12年間を含む過去14年間にエチオピア、スーダン、パプアニューギニア、南スーダン、またニューヨークで開発と平和構築に携わる特別な機会に恵まれました。

リーダーシップは、戦略的思考、判断力、達成力、コミュニケーション、人事管理などの一連の業務能力（コンピテンシー）を含みます。長年にわたり開発と平和構築の現場で働いてきた経験を通じて、私は多くのことを達成しましたが、リーダーシップを発揮する際の課題にも直面しました。そうした経験を通じて、より高位の立場に移行し、インパクトのある成果を達成して受益者の人々の生活に変化をもたらしたいならば、リーダーシップの業務能力を向上させるため、時間を投資し、意識的で継続的な努力をする必要がある、と痛感しました。そこで私は、国連における管理職と指導職のより大きな責任を引き受ける準備として、リーダーシップの業務能力を強化するために、ミッドキャリア・コースへの参加を決めました。ミッドキャリア・コースは、講義、シナリオに基づいたロールプレイ演習、参加者同士の相互学習、国連の高位管理職の講師との相互交流を通じた洞察・助言・実例の共有を、素晴らしい形で盛り込んだものでした。ミッドキャリア・コースは、国連などの組織における管理職や指導職のより大きな責任を引き受けようとする人々にとって、有益で、相互交流的で、適切に構成されているものでした。



ジェーン コニー

国連南スーダン共和国ミッション (UNMISS) ベンティウ事務所救援・再統合・文民保護部 (RRP) チームリーダー

20年以上の職務経験において、私はその1年半を平和維持に、そして残りを緊急人道支援、また、早期復興と開発にあててきました。

この1週間の研修は、リーダーシップとコミュニケーションの重要な実践的なライフスキルを得るための貴重な機会でした。確実にこのスキルは、国連におけるキャリアを中間レベルから上級管理職レベルにまで押し上げる鍵となるものです。この研修中、私は国連に入るまでの長い経験を共有するためリソースパーソンを務めました。同時に、豊富な経験を有するファシリテーターや同僚から学びました。このコースは「ワンストップセンター」のようにユニークで、私たち参加者がそれぞれの分野で専門的に成長し、他の人々と関わりながら個人的な関係を築くための基礎となるリーダーシップやコミュニケーションのスキルの完全なパッケージを与えてくれました。

家庭と仕事を両立しようとしている女性の一人として、これらの両立は簡単ではないと経験上知っています。私が特に若い女性の専門家へ激励したいことは、もし家庭も仕事も得たいのであればどちらかを犠牲にする必要はないということです。もしあなたがそのどちらかのみを得たいのであれば、その目標に向けて頑張ってください。いずれにせよ、優れたリーダーシップとコミュニケーションのスキルは、どの方向に進むとしても役立つ一つの道具箱です。

この優れたプログラムを提供してくれたHPCに感謝するとともに、委託元である外務省にその資金が十分にこのプログラムへ活かされていることを再度お伝えしたいと思います。私たちは参加者として、プログラムの価値を認識し、感謝しています。日本の外務省がこのプログラムを広げ、世界中のより多くの人々がこの利益を得られるように引き続き支援していただければ幸いです。このようなプログラムを通して、世界平和への非常に貴重な貢献が続いていきます。

ミッドキャリア・データ 参加者出身機関（2015年～2019年度、機関・部署名はコース参加時）

国 連 機 関

DPKO(国連平和維持活動局)／DFS(国連フィールド支援局)／UNMAS(国連地雷対策サービス部)／DPI(国連広報局)／UNRCO(国連常駐調整官事務所)／IOM(国際移住機関)／UNICEF(国連児童基金)／WFP(国連世界食糧計画)／UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)／FAO(国連食糧農業機関)／UN-Habitat(国連人間居住計画)／UNESCO(国連教育科学文化機関)／UNAIDS(国際連合エイズ合同計画)／ILO(国際労働機関)／UNOPS(国際連合プロジェクトサービス機関)／UNDP(国連開発計画)／UNFCCC(気候変動枠組条約事務局)／UNRWA(国連パレスチナ難民救済事業機関)／WHO(世界保健機関)／UNITAR(国際連合訓練調査研究所)／UNMISS(国連南スーダン共和国ミッション)／UNSOM(国連ソマリア支援ミッション)／MINUSMA(国連マリ多元統合安定化ミッション)／UNSOA(国連AMISOM支援事務所)／UNOCA(国連中央アフリカ地域事務所)／UNFICYP(国連キプロス平和維持軍)／Office of the Special Envoy of the Secretary-General for Syria (国連事務総長特別代表[シリア]事務所)

(機関名称はコース参加当時の名称)

PKO訓練センター

KAIPTC(コフィ・アナン国際平和維持訓練センター)

国 際 機 関

ICRC(赤十字国際委員会)／INTERPOL(国際刑事警察機構)／世界銀行／メコン川委員会／OSCE(欧州安全保障協力機構)

政府関係機関

外務省／内閣府／JICA(国際協力機構)／NGO／民間企業



令和元年度(2019年度)ミッドキャリア・コース：カリキュラム・講師紹介

1st. Stage Training

国際機関におけるコミュニケーションコンピテンシー

Day 1

概要：コミュニケーション

Day 2

実践的な対人スキル

Day 3

実践的な広報スキル

アンドリュー・カシム

クルーシャルコミュニケーション代表取締役

篠田 英朗

HPC代表理事／東京外国語大学教授

上杉 勇司

HPC副理事／早稲田大学教授

玉内 みちる

HPCシニア・アドバイザー(キャリア構築支援)

忍足 謙朗

HPC評議員／難民を助ける会(AAR Japan)常任理事／元国連食糧計画(WFP)アジア地域局長

2nd. Stage Training

国際機関におけるリーダーシップコンピテンシー

Day 4

リーダーシップの理論と能力

Day 5

国連システムにおけるリーダーシップ

Day 6

分断された世界でのリーダーシップ

Day 7

コミュニケーションに関する包括的な演習／国連システムにおけるリーダーシップ

シッダルト・チャタジー

駐ケニア共和国国連常駐代表

ポール・エグンソラ

国連南スーダン共和国ミッション (UNMISS) 官房長

加藤 美和

国連薬物犯罪事務所(UNODC) 事業局長 <スカイプにて参加>

ウマル・バ

国連マリ多面的統合安定化ミッション ガオ地域事務所長

鈴木 彩果

国連事務局 幹部職員 <スカイプにて参加>

篠田 英朗／上杉 勇司／玉内 みちる／忍足 謙朗／アンドリュー・カシム



Global Career Course

グローバルキャリア・コース

国際機関でのキャリア構築のための知識とフィールドでの体感

「グローバルキャリア・コース」は、現在は国際機関で勤務していないものの、今までの経験を活かし、今後国際機関での勤務を希望する、10年程度の専門的な職務経験をお持ちの方を対象に、国連の諸活動について知識を深め、これまで自身が積み上げてきた技能を再認識した上で、今後の国際機関におけるキャリア構築の可能性を探り具体化させていくために実施しました。本コースでは、国内研修(必須)と海外フィールド・トリップ(オプション)を提供します。今年度の国内研修は2019年9月7日から12月14日までの期間で8日間にわたり、東京で行いました。



今年度参加者からのメッセージ



大阪市南部こども相談センター(児童相談所) 心理士 **川杉 麻由美**

職務上、多くの親子と接する中で、社会のありようが家庭での養育に直接反映されることを実感し、こどもを取り巻く問題とは、世界的な政治・経済・文化の潮流と切り離せない日々感じます。現在のキャリアを海外の人道支援と繋げられたら、多層な解決への道筋が見つかるのではと考え、研修参加に至りました。研修では、採用プロセスの説明から面接時のポイントといった具体的なアドバイスのほか、紛争地や援助場面における国連の活動をロールプレイで実践し、様々な困難やジレンマを体感できました。多様なキャリアを持つ参加者の方々とは、仕事のことからプライベートまで話し合え、大阪から東京へ通う価値がありました。シエラレオネでのフィールドトリップでは、各国連機関の取組みを実際に見学し、被災者支援・雇用創出の現場では、人々の元に支援が届き生活を取り戻すことが、平和に資する様子を知れました。援助とは、定式化されない余剰部分に、人が関わることの意味や可能性がある、研修全体を通じて認識できたことは、今後自分を支える土台になりそうです。

フィールド・トリップ



シエラレオネ

シエラレオネのフィールド・トリップは2019年11月23日～12月1日に実施し、6つの国連機関の現地事務所や2つの国連機関のプロジェクトサイト、及び市民社会団体などを訪問し、ブリーフィングと意見交換会を行いました。フリータウン郊外の洪水被害移住者の集落における日本政府支援による国際移住機関(IOM)給水プロジェクトのサイトの視察や、郊外のケナマにあるUNDPプロジェクトの視察を行い、市議会の行政官や調達担当者らとの面談を行いました。各機関で説明を受けた地方の状況を、実際のプロジェクトを通して体感することで国連機関に対する理解をさらに深めることが出来ました。



キプロス

キプロスへのフィールド・トリップは、2019年11月7日～11月13日に実施し、現地にて平和維持活動を展開している国連PKO(UNFICYP)、国連の仲介をしているOSASG(Office of Special Advisor to the Secretary-General)並びに、キプロスでの人道支援活動をしているUNHCRを訪問しました。各機関の活動について説明を受けるだけでなく、参加者各々のスキルを活かし、将来的な国際機関での勤務に向けた情報収集を行いました。国連機関の訪問のみにとどまらず、地元市民団体によるワークショップやセミナーに参加し、キプロス紛争の歴史、現状を学びました。

令和元年度(2019年度)グローバルキャリア・コース国内研修:カリキュラム・講師紹介

導入:国際機関の人事制度の概要

国連職員としての業務遂行能力・コミュニケーション技術の増強 / 国際機関での勤務環境

田辺 圭一	元国連南スーダンミッション民政官/東海大学准教授
玉内 みちる	HPCシニア・アドバイザー(キャリア構築支援)
忍足 謙朗	HPC評議員 / 難民を助ける会(AAR Japan)常任理事 / 元国連食糧計画(WFP)アジア地域局長
篠田 英朗	HPC代表理事 / 東京外国語大学教授
上杉 勇司	HPC副理事 / 早稲田大学教授

国連平和活動の基本概念

国際機関におけるキャリアマネジメント

長谷川 祐弘	HPC評議委員会委員長 / 特定非営利活動法人日本国際平和構築協会理事長 / 元国連事務総長特別代表(東ティモール担当)
小山 淑子	早稲田大学准教授 / 元国際連合コンゴ民主共和国ミッション(MONUC)民政官

自然災害時における緊急人道援助 / 人道援助分野での交渉術

忍足 謙朗	
佐藤 美央	国際移住機関(IOM)駐日事務所代表

国連における開発援助の基本概念 / 国連における民主的統治

井上 健	国際協力機構 国際協力専門員(ガバナンス・民主化支援)
山崎 節子	世界気象機関(WMO) 監査委員 / 元国連開発計画(UNDP)カンボジア事務所長 / 元国連開発計画(UNDP)ベトナム事務所長

アクションプラン設定によるキャリア構築 / 各参加者によるキャリアプラン発表

田辺 圭一 / 玉内 みちる / 忍足 謙朗 / 篠田 英朗

フィールド・トリップ(オプション)、フィールドトリップの発表

国連平和維持活動の長期にわたる関与のケースとしてのキプロス / 紛争後の構築のケースとしてのシエラレオネ

田辺 圭一 / 篠田 英朗

キャリア構築エクササイズ: バリューカードエクササイズ、採用模擬面接、国連人事採用市場におけるSWOT分析

田辺 圭一 / 玉内 みちる / 忍足 謙朗 / 篠田 英朗 / 上杉 勇司



キャリア構築支援

採用のプロセスと仕組みを理解し、
戦略的に応募の準備をするコツを知る



玉内 みちる
HPCシニア・アドバイザー
(キャリア構築支援)

キャリア構築カウンセリング

プライマリーコース研修員・修了生、及び他コースの参加者を対象に玉内みちるシニア・アドバイザーによるカウンセリングを継続的に実施。受講者はこれまでの経験・専門性を振り返りつつ、自身の今後のさらなるキャリアの発展に役立つアドバイスを受けました。

みなさん、こんにちは。私は、長年国連機関で人事・人材開発の仕事に携わってきました。実は、国連・国際機関に入るためには、その特殊な採用のプロセスと仕組みを理解し、戦略的に応募の準備をするというちょっとしたコツがあります。それを実行すれば、採用されるチャンスは増大します。国連機関が求めている人材や職種は、あらゆる分野に渡っています。国連とは何の関係もない分野だと思ってキャリアを積んだ方でも、専門性を生かして活躍できる場が見つかる可能性もあるのです。世界を舞台に働く「グローバル人材」とは国際機関に限らず、グローバルビジネスの分野においても、世界のどこででも通用する専門知識・スキル・行動パターンを持っている人のことをさします。語学のみならず、文化やコミュニケーション・スタイルの違いを乗り越える柔軟性を持ち、多様な人々と目標達成のために効果的に働くことができる人材のことです。世界各国にプログラムを展開する国連組織は、チャレンジングな職場です。異文化の人々と異文化の環境で、世界のことを考えながら働く現場です。泣いたり笑ったり、落胆したり感動したり、自分自身の文化の境界と限界を常に超えることを余儀なくされるユニークなキャリアです。グローバル・キャリアに挑戦してみたい方々にとって、グローバル人材育成事業のコースはご自分のキャリア人生において、貴重なターニング・ポイント、転換点となると思います。皆さん、どんどん参加してください。

キャリア構築支援システム

プライマリー・コース日本人修了生専用のウェブサイトページを作成し、キャリア構築支援の拡充を目指しています。修了生専用のウェブサイトページ内では、修了生同士のネットワーキング拡充や、キャリアについて深く考える機会を提供予定です。また、国際機関でキャリア構築をしていく上での相談窓口として、専門的な質問や相談にも対応できるように、研修コースに携わる講師陣を中心としたメンターシステムの準備も進めています。

キャリア構築支援セミナー

プライマリー・コース開催中の2020年2月18日・19日に、アリーナ・ブデチ氏(心理療法師)・根本巳欧氏(国連児童基金東京事務所副代表)によるセミナー'Tips for Career Development With Special Reference to Field Oriented Jobs'を開催しました。本セミナーはフィールドでの業務について豊富な見識を持つブデチ氏と根本氏、研修員との対談形式で開催され、フィールドでの勤務に際して、積極的に意見交換がなされました。



海外派遣後の所属先機関の例(過去3年間)

国連機関 ▶UN DPO(平和活動局) ▶PBSO(国連平和構築支援事務局) ▶MONUSCO(国連コンゴ民主共和国安定化ミッション) ▶UNSOM(国連ソマリア支援ミッション) ▶UNVMC(国連コロンビア検証ミッション) ▶Integrated Office of the DSRSG/RC/HC/RR for Somalia(ソマリア統合事務所) ▶UNRCO(国連常駐調整官事務所) ▶UN DOS(国連活動支援局) ▶UNMAS(国連地雷対策サービス部) ▶UNODA(国連軍縮部) ▶OHCHR(国連人権高等弁務官事務所) ▶UNODC(国連薬物犯罪事務所) ▶UNDP(国連開発計画) ▶UN OCHA(国連人道問題調整事務所) ▶UNHCR(国連難民高等弁務官事務所) ▶UNFPA(国連人口基金) ▶UNICEF(国連児童基金) ▶WFP(国連世界食糧計画) ▶IOM(国際移住機関) ▶FAO(国連食糧農業機関) ▶UNWomen(国連女性機関) ▶UN-Habitat(国連人間居住計画) ▶UNOPS(国連プロジェクト・サービス機関) ▶WHO(世界保健機関) ▶UNIDO(国連工業開発機関) ▶UNU(国連大学) ▶ICC(国際刑事裁判所)

国際機関 ▶World Bank(世界銀行) ▶OSCE(欧州安全保障協力機構) ▶The Global Fund to Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria (世界エイズ・結核・マラリア対策基金) ▶ADB(アジア開発銀行)

NGO ▶Humanity & Inclusion ▶プラン・インターナショナル・ジャパン ▶大和日英基金 ▶Save the Children

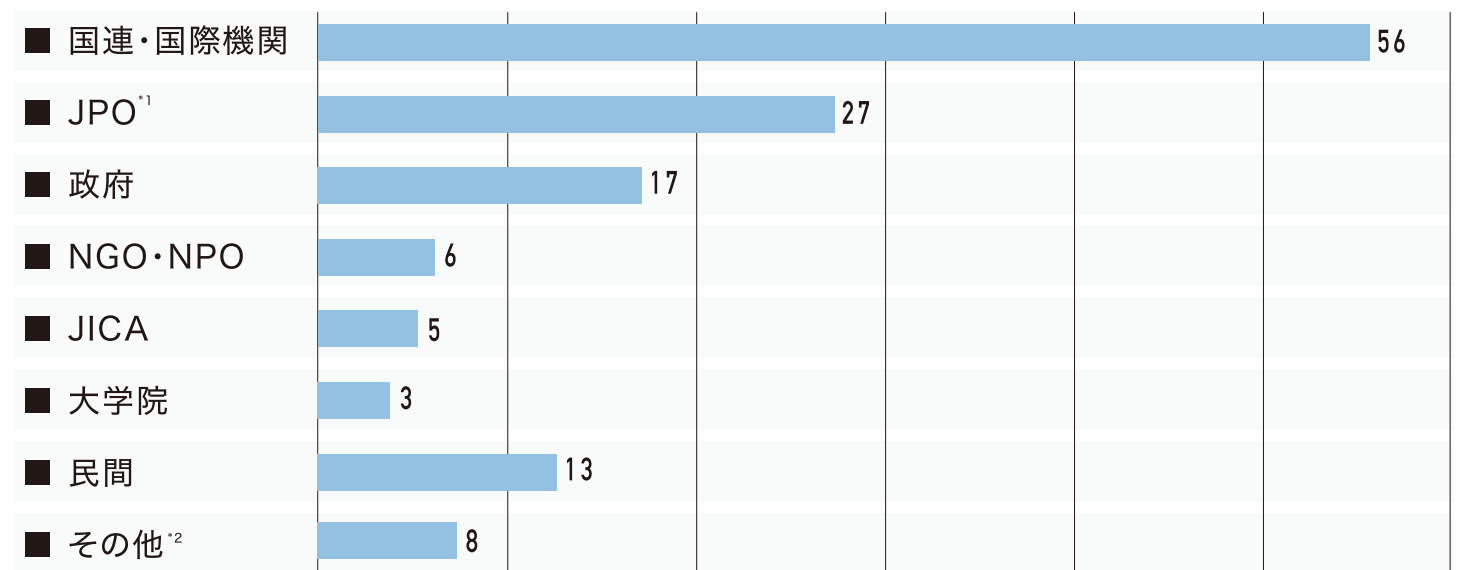
政府関係機関 ▶外務省(本省・在外公館) ▶内閣府 ▶JICA(国際協力機構) ▶法務省

その他 ▶教育機関、医療機関、法務・政務事務所 等

(平成30年～令和2年3月までの所属先)

データでみるキャリア構築

プライマリー・コース修了生の現在の職業



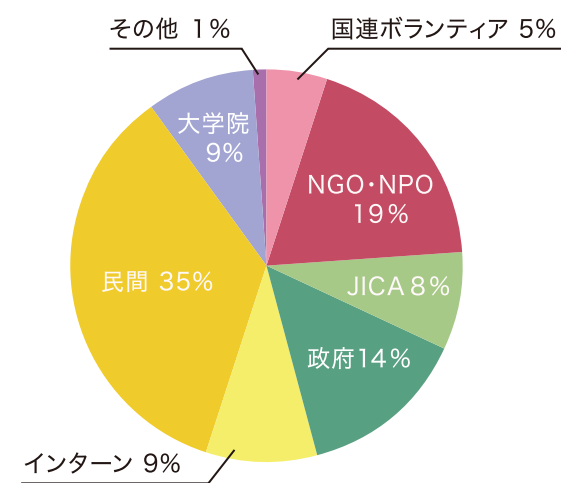
*1：JPO(ジュニア・プロフェッショナル・オフィサー)とは、日本政府が派遣にかかる経費を負担することにより、将来的に国際機関で正規職員として勤務することを志望する若手日本人が、一定期間(原則2年間)各国国際機関で職員として勤務し、正規職員となるために必要な知識・経験を積む機会を得る制度です。

*2：「その他」には、育児等のキャリア上の理由による活動に従事している方が該当します。

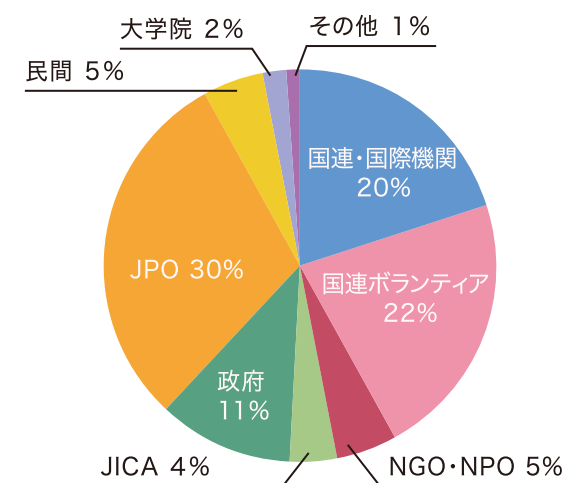
※平成19～29年度までの、修了生164名のデータ(うち、過去1年以上確認がとれていない29名を除く)

※令和2年(2020年)3月時点

プライマリー・コース研修員・修了生の事業参加前後の職業



※平成19～令和元年



海外派遣終了直後

※平成19～30年度(海外派遣中の研修員は除く)

事業参加前のキャリアを見ると平和構築／開発分野に既に関わっている者も見られるものの、国連／国際機関でのキャリアを積んでいる者はわずかしき見られません。海外派遣後は、国連・国際機関、国連ボランティア、JPOでのキャリアをスタートさせ、継続させる者が多く見受けられます。



篠田 英朗

HPC代表理事／平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業プログラム・ディレクター／東京外国語大学教授

事業が目指すキャリア構築

広島平和構築人材育成センター(HPC)は、外務省の委託を受け人材育成事業を13年にわたり実施。本事業では世界各地の第一線で「ピースビルダー」として平和構築に取り組む、数多くの有為な人材を輩出してきました。HPC代表理事の篠田英朗が、事業が目指すキャリア構築について語りました。

グローバル人材育成事業では、平和構築に寄与する人材を募り、相互に切磋する研修の場や、実際に国際機関の業務に従事する機会を提供しています。事業の修了生が事業をきっかけに、そのまま国際機関などで活躍をし続けていくことを願っています。

ただし、実際には、長いキャリアを上手くマネジメントしていくのは、簡単ではありません。結婚・出産・親の高齢化などの様々なライフイベントと、国際機関などを通じた世界各地の現場での仕事をどのように両立させていくか、という課題もあります。

必ずしも正しいと言える答えのないライフイベントへの対応方法については、より多くの先輩たちの取り組みの事例を知っていただこうで、幅広い柔軟な視野を持って考えていくことが、非常に大切であると考えています。本事業では、キャリア構築支援の一環として、様々な先輩たちの体験談を紹介するとともに、キャリアデザインを継続的に見直していく手助けをしています。



玉内 みちる

HPCシニア・アドバイザー（キャリア構築支援）



アリーナ・ブデチ

心理療法師

今年度のプライマリーコースでは、心理療法師で、HPCのアドバイザーでもあるアリーナ・ブデチ氏に、メンタル面に配慮をしたキャリア構築のあり方を話していただく機会を設けました。



マイケル・エメリー

国際移住機関(IOM)人事部長



アンソニー・P・ダンカー

国連オペレーション支援局(DOS)人事部次長

と語っていただきました。ご家族の支援や協力のもと、様々なフィールド勤務と本部勤務を繰り返し、ご自身のキャリアを築いた経験を、研修員に伝えていただきました。

キャリア構築は、人事の専門家の方々に重要なトピックではありません。本事業では、多数の国連職員を中心とする実務家の方々に講師としてお招きしました。そうした講師の方々には、正規の研修カリキュラムの中で専門的知見を共有していただくだけでなく、様々な個別的な助言を研修員に提供していただきました。



マリア・ロペス・エcheバリア

国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS)復興と帰還、社会復帰担当官



ジェーン・コニー

国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS)救援・再統合・文民保護部(RRP)ベンティウ事務所チームリーダー

た例えば南スーダンにおける平和構築の最前線で勤務されているマリア・ロペス・エcheバリア氏には、キャリア構築にあたっては、優先順位の判断や効果的な計画を行っていく姿勢が必要になることを説明していただきました。国連でのキャリア構築には家族との関係を含めた生活管理が重要になってくると、国連の職場環境には数多くの魅力的な機会があふれており、上手く活用すれば、国連ほど楽しい職場はないこともお話しいただきました。また5人のお子さんを育てながら、やはり国連PKOの困難な職場で勤務し続けているジェーン・コニー氏には、自分の生活を充実させながら国連の職務を全うするキャリアを構築するのでなければ意味がない、と力強く宣言していただきました。



デズモンド・モロイ

HPCコース・メンター／アジア財団ミャンマープログラム・マネージャー



忍足 謙朗

HPC評議委員／難民を助ける会(AARJapan)常任理事／元国連世界食糧計画(WFP)アジア地域局長



長谷川 祐弘

HPC評議委員会委員長／特定非営利活動法人日本国際平和構築協会理事長／元国連事務総長特別代表(東ティモール担当)

令和元年度プライマリー・コースでは、昨年度に引き続き、人事の専門家にもお越しいただきました。マイケル・エメリー氏には、国連でのキャリア構築にあたっては、広い心と柔軟性が大切になるということをお話しいただきました。何度か国連を離れたり国連に戻ってきたりしながらキャリアを積み重ねられたご自身の経験なども語っていただきました。またアンソニー・P・ダンカー氏には、自分自身をよく知って誠実に判断をしていくと同時に、体系的にキャリア構築を図っていかねばならない

たとえば南スーダンにおける平和構築の最前線で勤務されているマリア・ロペス・エcheバリア氏には、キャリア構築にあたっては、優先順位の判断や効果的な計画を行っていく姿勢が必要になることを説明していただきました。

国連でのキャリア構築には家族との関係を含めた生活管理が重要になってくると、国連の職場環境には数多くの魅力的な機会があふれており、上手く活用すれば、国連ほど楽しい職場はないこともお話しいただきました。また5人のお子さんを育てながら、やはり国連PKOの困難な職場で勤務し続けているジェーン・コニー氏には、自分の生活を充実させながら国連の職務を全うするキャリアを構築するのでなければ意味がない、と力強く宣言していただきました。

国連による武装解除の厳しい業務に従事してきたデズモンド・モロイ氏には、過去の経験をよく分析して活かしていくことを通じて、新しいキャリアを作っていくことの大切さを語っていただきました。

緊急人道援助で責任ある職務を歴任された忍足謙朗氏からは、現地スタッフとの良好な関係を築くことが何よりも大切だと繰り返し教えていただきました。

長谷川祐弘氏は、東ティモール事務総長特別代表として終わりを迎えた37年間の国連でのキャリアを振り返ってみて、国連に参加する前にプライマリー・コースのような研修を受ける機会があったら、国連でより効果的に活動できたと感じる場面が多々あったと述懐されました。そして、研修員がUNVの任務を遂行していくにあたって、プライマリー・コースから学んだ貴重な教訓を適用するよう奨励していただきました。



ピースビルダーズ特集

平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業の講師・修了生・研修員が、世界各地にある平和構築及び開発の現場から、自らの経験を踏まえた生の声をお届けします。



平成30年度(2018年度)プライマリー・コース研修員
河野 雄太
UNDPアフリカ地域事務所平和構築・ガバナンス専門官

私は現在エチオピアのアジスアベバにある国連開発計画アフリカ地域センター(UNDP Regional Service Centre for Africa [UNDP RSCA])でSupport for Effective Cooperation and Coordination of Cross-border Initiatives in Southwest Ethiopia-Northwest Kenya, Marsabit-Borana & Dawa, and Kenya-Somalia-Ethiopia [SECCCI])という地域プロジェクトに従事しています。この事業は一言でいうと、アフリカの角地域の中のエチオピア、ケニア、ソマリアの国境地帯の政府間協力を促進するプロジェクトです。政府間協力や国境に跨る天然資源(河川、湖、牧草地等)を国家間で平和的に共同管理することで、国境地帯の紛争や不安定化した情勢、違法に越境する移民、強制移住の要因を取り除くこと、遊牧や漁業を生業とする現地住民の生計の向上、国境間交易を促進すること、そしてこれらを可能にするための土台となる政策文書作成に関する能力構築を現地政府に対して行うことが事業の目的です。事業の背景としては、気候変動や人口増加によりこうした天然資源は減少傾向にあり、限られた資源を巡って衝突が増えている現状があります。状況が悪化した場合は難民や国内避難民の増加に繋がる可能性があります。また、こうした国境地帯に住む人々は都市に住む人々に比べて教育や生計手段等の機会に乏しく、政府に反感を抱いている場合が少なくありません。加えて、信仰心に篤い人が多い反面、教育の問題から、教

典を自身で読み、理解できる人口が限られています。こうした要素が絡み合い、国境地帯は反政府組織のリクルートの温床になっていることがUNDPの研究で分かっています。リクルートは宗教を利用する形で行われる場合が多いのです。このプロジェクトは主にEUの資金で実施されています。契約者はUNDP RSCAで、政府間開発機構(IGAD)及び国連環境計画(UN Environment)とUNDP RSCAがパートナーシップを結んでプロジェクトを実施しています。上の写真は、Dollo Adoというエチオピアの辺境の町に出張した時のもので、ミッションの完了を記念してアジスアベバの空港で撮った1枚です。Dollo Adoはエチオピア領内に位置していますが、ソマリアとケニアの国境に面しています。出張の目的はDollo Adoにプロジェクトの新しいフィールド事務所を立ち上げることを念頭に、1)セキュリティ面、調達面から事務所の立ち上げが可能かアセスメントを行うこと、2)事務所使用に適した物件を特定すること、3)現地政府を中心としたステークホルダーにプロジェクトやフィールド事務所立ち上げの経緯に関する説明を丁寧に行い、国境地帯の開発に関する課題や要望について協議し、良い関係を構築することで、事業が現地に歓迎される形でフィールド事務所を立ち上げられるよう政治的土台を形成することでした。この出張はIGAD、エチオピア政府平和省(Ministry of Peace)、UNDPの三者で行いました。上の写真の左の眼鏡をかけている男性がIGAD職員、左から二番目がエチオピア平和省職員、私(UNDP RSCA)、一番右がIGAD職員です。飛行機は国連世界食糧計画(WFP)が飛ばしている国連人道支援航空サービス(UHNAS)のもので、UHNASのフライトがアジスアベバから直接移動できる唯一の手段です。出張中に達成したかった上記3点の成果を無事上げることができフィールド事務所立ち上げ準備が大きく前進したことで、安堵しているチームの笑顔が見て取れると思います。



令和元年度(2019年度)プライマリー・コース講師
リサ・リーフキ
国連アフガニスタン支援ミッション(UNAMA)政務部上級政務担当官

私は東ティモール、レバノン、ブルンジ、南スーダン、アフガニスタンの現地ならびにジュネーブとニューヨークの本部で、15年以上国連の平和活動に従事するという幸運に恵まれています。2019年2月から私は国連アフガニスタン支援ミッション(UNAMA)で上級政務官として勤務しています。私の仕事は、政治分析・助言・関与を通じて、ミッション指導部を支えること：国内政治、国会関連業務、治安部門のモニタリング、および地方との連絡調整、UNAMAフィールド事務所に拠点を置く政務部チームとの地方レベルでの連携などの分野でチームの組織的活動を指揮し、指導しています。国連での国際的なキャリア構築に関心のある人は誰でも、問題を抱えた人々に奉仕することに強い関心を持ち、母国から遠く離れ、たいてい厳しい環境で、生活する心構えがあるはずです。そこで心に留めておくべきことを3つ、助言したいと思います。第一に、チームに力を入れることです。あなたの仕事は協働的なチームの努力としてのみ達成できるものだからです。第2に、専門分野に精通し、継続的に自分自身を改善するためにオープンになりましょう。そして第3に、謙虚であり続けてください。あなたの地位がどんなものであれ、皆に敬意を持って接しましょう。困難であったとしても、毎日最善を尽くし、他の人たちもそうするように励まし助けてください。プライマリー・コースは、PAにチームワークのスキルを強化しながら、分析・計画・調整・プログラム／プロジェクト管理の専門的な業務能力を向上させるユニークな機会を提供します。また同時に、同期の研修員と経験を共有し、交流し、また学び合うことができます。コースの構成は極めて優れており、学びやすい環境を提供しています。



平成20年度(2008年度)プライマリー・コース修了生
吉岡 由美子
国連事務局PKO局地地雷対策サービス部局(UNMAS)シリア・レスポンス ペイルート(レバノン)事務所

中学校3年生の時、朝のニュースで、国連で働く日本人が少ないというドキュメンタリーが流れていました。おそらくバルカン半島あたりだと思うのですが、日本人の小柄な文民女性が、ブルーヘルメットを被った軍人さん達と交渉をしていらしたのが強く印象に残っています。ドキュメンタリーの最後に、「国連で働く人が少ないので、平和を作る仕事に興味がある人はぜひ応募してください」というようなメッセージがありました。それを見て、自分の将来を考えた時に平和を作るような仕事に関わりた、と思ったのが平和構築の分野で働くことになった最初のきっかけです。大学院修了後、在外公館にて専門調査員を経験し、JICA(独立行政法人国際協力機構)でイラクの復興支援に携わりました。それから「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」に参加し、UNVとしてUNMASの南レバノンの事務所に派遣されました。その後省庁にてパレスチナ支援に携わっていた中で、UNMASの空席公募に応募をして採用されました。UNMASに入ってから、アビエイ(スーダンと南スーダンの国境付近の係争地)から始めて、その後、リビア、南スーダンでの勤務を経験し、現在は、レバノンからシリア国内における地雷対策活動に従事しています。シリアでの紛争が始まって10年となりますが、国内における爆発物は、人々の命を危険にさらし、更には人道支援の妨げにもなっており、非常に深刻な問題です。国連で働くというのは日本の社会ですずっと働く、ということと比べると、不安定な要素も多いように見えますし、その不安定さを周囲の人から指摘をされることも時々あると思います。ただ、将来的に平和構築や国際協力の分野で働きたい方には、そうした中でもご自身の中で「これがやりたい!」という確固たるものがあるのであれば、今後それがうまくいく保証は無いかもしれないけれど、とにかく行動を起こしてみる、ということが大事だということをお伝えしたいです。

